

平成 26（2014）年度

文京学院大学人間学部
FD 委員会報告書（概要）

人間学部 FD 委員会作成

平成 26 年度 人間学部 FD 委員会 報告書

あいさつ	p. 1
I 今年度の活動目的	p. 1
II 活動経過と内容	p. 3
III 今年度の FD 活動を振り返って	p. 4
IV 委員会議事録（第 1 回～第 7 回）	p. 6
V 委員氏名	p. 16

あいさつ（伊藤英夫 学部長）

人間学部のように性格の違う 4 学科で構成されている場合、学部としての FD は難しいと言われることがある。授業のやり方や位置づけも違うので、他学科の研究授業の報告を聞いてもあまり参考にならないという意見もよく耳にする。しかし、具体的なノウハウではなく、基本的な部分で、いかに学生に理解させるか、いかに学生に参加させるか、という観点で、自分の授業を改善するきっかけにしていだきたい。今年度も、各学科の FD 委員を中心に研究授業を行ったが、今後は、全学部に拡大していくことを期待しています。

I 今年度の活動目的

人間学部の FD 委員会は、今年度で発足 2 年目を迎える。今年度の活動目的を述べる前に、今までの経緯について説明することにする。

平成 25（2013）年 4 月 1 日から「文京学院大学 FD・SD 規程」が施行され、「第 6 条 3 各学部ごとに企画運営する学部 FD 研修は、学部の実態に応じて定期的実施し、以下の内容を中心に行う。（1）当該学部に必要な教育方法に関する研修 （2）学生が主体的に学ぶ学習方法の研究に関する研修 （3）教育法の研究事例 （4）その他上記に関連する研修」をうけて全学 FD 委員会が設置され、下部組織として各学部に FD 委員会が発足された。人間学部の FD 委員会では、教員相互の授業参観を行うことで、教員の教育方法や授業技術の向上を図り、学部 FD 研修会にて報告することで、学部教員全体の教育技術の向上に寄与することを目的にした。

そこで、FD 委員会の発足 1 年目である昨年度は、前期は授業研究を試行しながらその方法を検討し、学部 FD 研修会に報告して学部教員全員で検討し、人間学部独自の授業研究方法を策定した。後期は各学科の FD 委員が授業研究を行い、FD 研修会に成果を公表して、人間学部の教員全員が討議した。

このFD委員会の1年間の活動についてアンケートを行ったところ、「①授業研究報告をもとにグループ討議を行う本日の研修について」では「a 良い」が46%、「b 普通」が46%だった。また、「②今年度のFD委員会の活動は、前期に授業研究方法を策定して、後期にFD委員が参観を伴う授業研究を行いました。このFDについて」では、「a 良い」が52%、「b 普通」が38%だった。①と②の項目の両方で「b 普通」以上が90%以上であったことから、おおむね良好な評価が得られたと考えた。また、同じアンケートの項目で、「③自分が参観を伴う授業研究を行うことについて」に対して、「c わからない」を選択した教員が最も多くて57%で、「b やってもよい」は32%で3分の1もいた。このアンケート結果により、FD委員会では、FD活動の成果を認めて、参観を伴う授業研究が定着できると考え、組織的なFD活動を活性化させていくことを確認した。

今年度は、昨年度と同様に、教員相互の授業参観にて、教員の教育方法や授業技術の向上を図り、学部FD研修会を通して、学部教員全体の教育技術の向上に寄与することを目的にした。FD委員会は発足2年目を迎え、今年度は組織的なFD活動の活性化を目指して委員を増員し、各学科から約2名の教員が代表として選出された。それは昨年度の委員定数の約2倍にあたる人数である。前期と後期に分かれて、学科別に1名の教員が授業研究を行い、全教員の参観が可能となった。さらに、後期の授業研究ではビデオ映像を導入して授業状況を具体的に理解できるようにした。したがって、今年度のFD活動の特徴は、「委員の増員に伴う授業研究回数の増加」、「学部全員の授業参観」、「ビデオ視聴を伴うリアリティある授業研究報告」の3点にあると考えられる。この報告書をもとに、FD委員会の1年間の活動を振り返り、成果を検討することにする。

(金子委員長)

II 活動経過と内容

実施日	FD 委員会（主な議題）	授業研究	研修会
平成 26 年 前期			
4/4(水)	第 1 回（今年度の活動内容）		
5/8(水)	第 2 回（授業研究の実施方法）		
5/19(月)		湯浅委員	
5/22(木)		加須屋委員	
6/4(水)	第 3 回 （湯浅委員・加須屋委員の授業研究の検討）		
6/5(木)		宮本委員	
6/18(水)		伊藤委員	
7/2(水)	第 4 回 （宮本委員・伊藤委員の授業研究の検討） （学部 FD 研修会の実施方法）		
7/30(水)			学部 FD 研修会
後期			
10/1(水)	第 5 回 （学部 FD 研修の反省と評価） （山崎委員の授業研究の検討）	山崎委員	
11/21(金)		小栗委員	
11/28(金)		奈良委員	
12/3(水)	第 6 回 （小栗委員・奈良委員の授業研究の検討） （学部 FD 研修会の実施方法）		
平成 27 年			
1/28(水)			学部 FD 研修会
2/4(水)	第 7 回 （学部 FD 研修会の反省と評価） （今年度の活動の反省と評価）		
2/25(水)			全学 FD 研修会

Ⅲ 今年度の FD 活動を振り返って

今年度は、昨年度と同様に、教員相互の授業参観にて教員の教育方法や授業技術の向上を図り、学部 FD 研修会を通して、学部教員全体の教育技術の向上に寄与することを目的にした。昨年度と比較して発展した点は、次の 3 つである。

- 1) 組織的な FD 活動の活性化を目指して委員を約 2 倍に増したこと
- 2) 前期と後期に分かれて、学科別に 1 名の教員が授業研究を行い、学部の全教員の参観が可能となったこと
- 3) 後期の FD 研修会ではビデオ視聴を伴うリアリティある授業研究報告を行ったこと

前期には、①湯浅委員「社会福祉入門」、②加須屋委員「第二言語習得」、③宮本委員「社会学 I」、④伊藤委員「心理学基礎演習 I」の 4 名の先生方が授業研究を行った。期末の FD 研修会では、授業研究の報告の後、「学生の理解度の違いへの対応について」をテーマに、学科ごとに 7 つのグループに分かれて討議を行った。心理学科からは、学生が聴いて理解する力が弱くなっている現状に対する工夫、人間福祉学科からは、国家資格に絡む授業での工夫、児童発達学科では、複数の教員が協力し合って学力を向上させる工夫、コミュニケーション社会学科では、能力別授業編成の工夫などが報告された。

なお、埼玉東萌短期大学の先生方が 5 名も参加してくださり、次のコメントを頂いた。

「大学教育として、社会の入り口として、また、資格取得で忙しいということで、全体としての質の維持について、先生方は課題を感じていることを勉強させていただきました。また、リアクションペーパーの活用などの学生の理解への把握といった双方向な授業展開を工夫されていることも感じました。小テストや授業の中でのディスカッションなどを通じて、自身の理解度を気づかせる機会であり、教員の理解度の把握する機会という、両方に働くものであるということを感じていただきました。」

なお、アンケート結果では、「①授業研究の報告について参考になりましたか？」では「はい」が83%、「②グループ討議は参考になりましたか？」では「はい」が94%で、8割以上が有効性を認めていた。「③研修内容について」は「適当」が68%で、研修会の効果が認められたものの、授業研究の報告の時間が短く、内容の把握がしにくいという感想があった。そこで、後期はビデオ録画の視聴を取り入れることにした。

後期は、①山崎委員「カウンセリング論」、②小栗委員「体育運動方法演習」、③奈良委員「レクリエーション援助」の3名の先生方の授業研究が行われた。期末のFD研修会では、授業研究の報告の後、「課題への取り組みをどのように促すか」をテーマに、学科ごとに7つのグループに分かれて討議を行った。学科を共通して、課題の取り組みを促すには、課題の意味づけ、その課題をなぜ今するのかを学生にしっかりと示す必要があるなどの意見がでた。また、アクションペーパーの有効活用や、課題を終了させないと成り立たない授業にするなどして、課題後のフィードバックにも力を入れるなどの工夫が報告された。

保健技術医療学部の飯島史郎教授からは「教員間の授業参観は大変に良い制度であり、保持し続けていってほしい。」との励ましのお言葉を頂いた。

アンケート結果では、「①授業研究の報告について参考になりましたか？」では「はい」が90%、「②グループ討議は参考になりましたか？」では「はい」が86%で、9割程度が有効性を認めていた。「③研修内容について」は「適当」が82%で、アンケート結果を基に、要望を取り入れながら研修会の方法を変更した効果と考える。昨年度のアンケート結果では、「②今年度のFD委員会の活動は、前期に授業研究方法を策定して、後期にFD委員が参観を伴う授業研究を行いました。このFDについて」で、「良い」が52%であったことを考慮すると、FD活動が進展していることが伺えた。

授業研究の有効性は、授業を実践した先生方は実感しており、今後も相互の授業参観を伴う授業研究が継続することが、最終のFD委員会で確認された。

(金子委員長)

IV 委員会議事録（第1回～第7回）

第1回 FD 委員会

日時：平成26年4月4日（金）13：30-14：45

場所：学部長室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、加須屋裕子、宮本和彦、小栗俊之、伊藤裕子、湯浅典人、
奈良 環、山崎幸子

欠席者：なし

【議題と内容】

1. 昨年度の報告書について

金子委員長より、平成25年度FD委員会報告書に関する説明があり、成果が確認された。

2. FD 委員相互の授業参観

FD 委員全員（伊藤学部長と金子委員長を除く）による授業を実施し、参観は人間学部内の希望者とする。授業はゼミ、講義、実習等について、いずれの形式にするかは各FD委員が決定する。授業日程は、各自公開したい授業について、金子委員長に連絡、調整する。授業参観のコメントは紙ベースで実施し、FD委員会にて検討する。

3. 現在の授業評価（学生の評価）について

魅力ある授業評価を実施するための検討がなされた。現在、学生の授業に関する評価では、自由記述欄を設けている。今後、大学全体としてどのように還元していくかを検討する。昨年度の自由記述については伊藤学部長がデータ化しているため、今年度はまずこのデータ分析を実施し魅力ある授業のポイントを抽出する。

次回FD委員会は、5月7日（水）17時～学部長室にて開催予定

以上

第2回 FD 委員会

日時：平成 26 年 5 月 7 日（水）17：00～18：00

場所：西館 3F 講師控室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、宮本和彦、小栗俊之、湯浅典人、奈良環、伊藤裕子、山崎幸子

欠席者：加須屋裕子

【議題と内容】

1. 今年度の FD 委員会と学部 FD 研修会について

金子委員長より、FD 委員会、学部 FD についての日程案が出され以下のとおり決定した。

○FD 委員会

前期：6 月 4 日（水）16：30～西館 3F 講師控室

7 月 2 日（水）16：30～西館 3F 講師控室

後期：10 月 1 日（水）、11 月 5 日（水）、12 月 3 日（水）、1 月 21 日（水）、2 月 4 日（水）

○学部 FD 研修会

前期：7 月 30 日（水）－修論の中間発表後の時刻に設定－ 後期：1 月 28 日（水）

2. 授業研究の実施について

以下の日程で授業研究を行う。

日程		科目	担当委員	参観委員（予定）
5 月 19 日（月） W303	1 限	社会福祉入門	湯浅	金子・宮本
5 月 22 日（木） W309	1 限	子どもの第二言語習得	加須屋	伊藤（英）、 金子・伊藤（裕）
6 月 5 日（木） C203	2 限	社会学 I	宮本	金子・山崎・奈良
6 月 18 日（水） E314	1 限	心理学基礎演習	伊藤（裕）	伊藤（英）・ 金子・小栗・山崎
11 月 21 日（金）	4 限	体育運動方法演習	小栗	金子

- ・指導案のフォーマット、評価表については後日、金子委員長よりメール配信される。
- ・指導案、授業資料は参加する FD 委員及び自由参加教員の人数も考慮し、当日までに用意する。
- ・評価表については、参観者（FD 委員、自由参加教員）、受講する学生分を各自印刷して用意する。
- ・ビデオ、カメラでの授業風景の撮影、記録を希望する場合は可能な限り用意し、実施する。
- ・授業を行った内容、結果、反省等については授業検討報告会までにまとめる。
- ・5/19 の湯浅委員、5/22 の加須屋委員の授業検討報告会を 6 月 4 日の FD 委員会時に行う。
- ・後期日程については、次回会議までに金子委員長にメールで伝える。

3. 学生の授業評価について

自由記述の回答例を集計したものを基に FD 委員会で検討した結果、自由記述に関しても教員個々にフィードバックする必要があるのではないかという結論に至った。まずは、回答例の集計を教務委員会に提出し、教務と連携して行く。

*次回 FD 委員会は、6月4日（水）16：30～西館 3F 講師控室にて開催予定

以上

第3回 FD 委員会

日時：平成26年6月4日（水）16：30～18：00

場所：西館3F 講師控室

出席者：伊藤英夫、金子智栄子、宮本和彦、加須屋裕子、伊藤裕子、湯浅典人、山崎幸子、奈良環

欠席者：小栗俊之

【議題と内容】

1. 5月の授業研究の検討

- ・湯浅委員の授業研究（社会福祉入門 5/19、1限）

湯浅委員より授業研究の概要に関する説明が行われた。参観した金子委員長、加須屋委員、宮本委員より気づいた点などの指摘があった。

- ・加須屋委員の授業研究（子どもの第二言語取得 5/22、1限）

加須屋委員より授業研究の概要に関する説明が行われた。参観した伊藤委員、金子委員長より気づいた点などの指摘があった。奈良委員から留学生が他の学生に与える影響などについての質問があった。

2. 授業研究の実施について

後期の授業研究（奈良委員、山崎委員）の日程が確定した。今後の授業研究の日程は以下の通りである。

日程		科目	担当委員	参観委員（予定）
6月5日（木）C203	2限	社会学 I	宮本	金子・山崎・奈良
6月18日（水）E304	1限	心理学基礎演習	伊藤（裕）	伊藤（英）・小栗・山崎
10月1日（水）	1限	カウンセリング論	山崎	
11月7日（金）	2限	レクリエーション援助	奈良	
11月21日（金）	4限	体育運動方法演習	小栗	

3. 研修会の参加について

- ・New Education Expo 2014（6/5～6/7）

6/5 16:00～山崎委員、6/6 16:00～金子委員長、16:00～奈良委員

- ・Benesse 大学シンポジウム 2014（6/28）

伊藤委員、金子委員長

4. 前期 FD 研修会 (7/30) について

金子委員長より、他学部へ周知すること、また、討議の柱については、前期の授業研究がすべて終了した次回の会議にて、内容を検討することが報告された。時間については修士課程の中間報告の発表を待ち、確定することとなった。

*次回 FD 委員会は、7月2日(水) 16:30～西館 3F 講師控室にて開催予定
以上

第4回 FD 委員会

日時：平成26年7月2日（水）16：30～18：00

場所：西館3F 講師控室

出席者：伊藤英夫、金子委員長、宮本和彦、加須屋裕子、伊藤裕子、湯浅典人、小栗俊之、
山崎幸子、奈良環

欠席者：なし

【議題と内容】

1. 研修会参加報告

・金子委員長、伊藤学部長、山崎委員、奈良委員より New Education Expo 2014 の内容について、主に教育機器の使用結果等の発表がされており、最新の機器以外に目新しい発表内容ではなかったとの報告がされた。

・金子委員長、伊藤委員より、Benesse 大学シンポジウム 2014 の内容について、方向性の定まらない学生に方向性をつけるベネッセの講座などの紹介があったことなどが報告された。

2. 授業研究報告

・宮本委員の授業研究：授業概要の説明がされた。金子委員長、山崎委員、伊藤委員、奈良委員より気づいた点や資料の多さについての指摘などがあった。

・伊藤委員の授業研究：授業概要の説明がされ、アンケートの自由記述など、特徴的なものが紹介された。

3. 前期 FD 研修会（7月30日水曜日）について

・当日の司会：山崎委員、奈良委員

・討議内容：「学生の理解度の違いへの対応について」必修と選択での違いなども含めて検討する。

・FD 研修会プログラムについて：学部長の挨拶、発表（40分）、グループ討議（20分）、全体質疑（10分）、まとめとアンケート記入（10分）等、全体で90分とする。

・グループ討議：学科ごとのグループ分けにする。

・アンケート：案として出された26年度アンケートの自由記述の欄で、今後のFD研修の内容についても聞く。

4. その他

・次回の授業研究の日程の紹介：10月1日（水）1限「カウンセリング論」山崎委員

・併設校高大連携委員会で、金子委員長がFD周知を行った。

・埼玉県東萌短期大学よりFDの視察の申し込みがあった。

・7月30日FD研修後、委員の会開催案内。

*次回FD委員会は、10月1日（水）16：30～西館3F講師控室にて開催予定

以上

第5回 FD 委員会

日時：平成26年10月1日（水）16：30～17：30

場所：西館3F 講師控室

出席者：伊藤英夫、金子委員長、宮本和彦、伊藤裕子、湯浅典人、小栗俊之、奈良環、
山崎幸子

欠席者：加須屋裕子

【議題と内容】

1. 前期学部 FD 研修会の反省と、後期学部 FD 研修会について

・前期学部 FD 研修会の参加者からのアンケート結果に基づき、金子委員長より報告がなされ、研修の有効性が明らかにされた。後期学部 FD 研修会においても前期と同様に、授業研究の報告と全体討議を行うこととなった。その際、授業研究についてはビデオ映像を用いること、授業研究と全体討議のテーマ設定との関連性を明らかにすることが話し合われた。さらに、後期学部 FD 研修会は2015年1月28日（水）に開催されることが確認された。

2. 経営学部 FD 研修会（9月16日）の参加報告

・向後千春先生（早稲田大学）の反転授業について金子委員長より報告された。

3. 山崎委員の授業研究の報告 カウンセリング論（10/1 水曜1限）

・山崎委員より、授業概要の説明、アンケート結果の閲覧を行った。金子委員長、奈良委員より気づいた点や感想などがあった。

4. その他

*次回 FD 委員会は、12月3日（水）17：00～西館3F 講師控室にて開催予定

以上

第6回 FD 委員会

日時：平成26年12月3日（水）17：00～18：30

場所：西館3F 講師控室

出席者：伊藤英夫、金子委員長、加須屋裕子、宮本和彦、伊藤裕子、湯浅典人、小栗俊之、奈良環、山崎幸子

欠席者：なし

【議題と内容】

1. 授業研究の報告

・後期に授業研究を実施した、山崎委員（カウンセリング論 10/1（水）1限）、小栗委員（体育運動方法演習 11/21（金）4限）、奈良委員（レクリエーション援助 11/28（金）2限）より、授業研究の概要、授業評価の報告、今後の課題等の報告がなされた。参観した金子委員長、伊藤委員より気づいた点、感想があった。

2. 後期学部 FD 研修会（2015年1月28日水曜日）について

・プログラムは学部長の挨拶、授業研究の発表（30分）、グループ討議（30分）、全体質疑（10分）、まとめとアンケート記入等、全体で90分とする。当日の役割分担は、司会：加須屋委員、湯浅委員、授業研究の発表：山崎委員、小栗委員、奈良委員、それぞれの発表に対するコメントは、参観した奈良委員、金子委員長、伊藤委員、授業研究のまとめ：宮本委員、研修会全体のまとめ：金子委員長、終わりのあいさつ：伊藤学部長とする。グループ討議のテーマは、「課題への取り組みをどのように促すか」に決定した。アンケートは前回と同様のものとする。授業研究の発表者はグループ討議のテーマに関する報告を発表内に組み込む、また、授業研究のまとめの際には授業研究とグループ討議の連結が明確になるよう言及する。

3. 2014年 FD 委員会報告書について

・金子委員長より報告書の役割分担についての報告がなされた。あいさつ：伊藤学部長、活動目的：金子委員長、活動経過：金子委員長、FD 研修会議事録・アンケート結果（前期、後期）：金子委員長、研修会参加報告 New Education Expo 2014：金子委員長、奈良委員、山崎委員、Benesse 大学シンポジウム 2014：金子委員長、伊藤委員、今年度の活動を振り返って：学部長を除く全委員、委員会議事録：金子委員長、奈良委員、山崎委員、全体のチェック：金子委員長、奈良委員、山崎委員とする。原稿の締切りは2月15日（日）までに金子委員長にメール等で提出とする。

4. その他

次回の FD 委員会の開始時間については、修士論文の中間報告会、ふらっとのスケジュール確定後に検討となった。また、議題として、各委員は FD 委員会を振り返って、をテーマとした議論を行い、来年度に向けた課題を抽出する。

*次回 FD 委員会は、2月4日（水）時間未定 西館 3F 講師控室にて開催予定

以上

第7回 FD 委員会

日時：平成 27 年 2 月 4 日（水）16：30～17：30

場所：西館 3F 講師控室

出席者：伊藤英夫、金子委員長、伊藤裕子、加須屋裕子、宮本和彦、湯浅典人、山崎幸子、
奈良環

欠席者：小栗俊之

【議題と内容】

1. 平成 26 年度人間学部 FD 委員会報告書について

2 月 15 日を原稿の締め切りとする。なるべく早めに原稿データを金子委員長に送る。

原稿については、山崎委員、奈良委員でチェックを行い、坂元助手とも連携し、冊子化する。

2. 後期 FD 研修会の反省と評価、今後の方針について

FD 研修会のアンケート結果を踏まえた上で今後の方針について話し合われた。今後も授業研究は続けて行き、全体の FD 研修会の内容については、専門家等を招くなど含めて検討する。また、研修会の時間については、現状のままの 1 時間半とし、発表時間を延長し、グループワークの時間を短くする。

以下の意見が出された。

○専門家の講師を招いての研修希望について

- ・発表したことに関して、専門家からのコメントをもらう。
- ・専門家を招き、話を聞くのみで終わってしまわないよう工夫が必要である。

○研修内容について

- ・学生の能力、現状を理解した上での FD 研修会が望まれる。
- ・学生の興味関心を引くような講義技術、聴かせる技術について講師を招く。

○その他

- ・他学部の FD 研修会を参考にしてもよい。
- ・100 人規模の講義について、評価方法について、試験の作成、方法についてなどのテーマ設定での研修会やグループワークも必要なのではないか。
- ・講義のビデオ撮影などが定着して行けば、もう少しテーマに沿った分かりやすいものができるのではないか。
- ・テーマ設定について、もっと細かく補足説明を加えるなどの工夫が必要である。

以上

V 委員氏名

コミュニケーション社会学科 : 宮本和彦

児童発達学科 : 伊藤英夫 (学部長)、金子智栄子 (委員長)、加須屋裕子、
小栗俊之

人間福祉学科 : 湯浅典人、奈良環

心理学科 : 伊藤裕子、山崎幸子